

令和8年度

博士後期課程

1-2月実施（一般入学試験）

人文学学位プログラム 歴史・人類学サブプログラム

区分	出題意図または解答例
専門科目	
問題Ⅰ	
〔1〕【英語】	<p>(1) 歴史学・人類学に関する英語文献の内容の的確な読解、ならびに論点に関わる理解の正確性を問う。</p> <p>(2) 上記文献で挙げられているキーワードを手がかりとして、自身の思考を論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔2〕【日本語】	<p>(一) 歴史学・人類学の手法に関する日本語文献を的確に読解したうえで、指定された論点について論理的に説明する能力を問う。</p> <p>(二) 上記文献の内容を踏まえ、指定された論点を的確に理解し、自身の考えを論理的に表現する能力を問う。</p>
〔3〕【ドイツ語】	<p>(1) 歴史学と人類学に関する学術的な独語文献の正確な読解を問う。</p> <p>(2) 上記文献で論じられる主要な論点を整理したうえで、論理的な文章として表現できる能力を問う。</p>
〔4〕【中国語】	<p>(1) 歴史学・人類学の研究手法に関する中国語文献を的確に読解したうえで、指定された論点の要旨を論理的に説明する能力を問う。</p> <p>(2) 上記文献の内容を踏まえて、その議論を自身の専攻分野において援用・展開する構想力とそれを論理的に説明する能力を問う。</p>
問題Ⅱ	
〔1〕【日本史学】	<p>(一) 日本史における家と村の問題について問う問題である。日本史全体の流れや時代ごとの論点について、一定水準以上の理解をしていることが求められる。</p> <p>(二) 各人が専攻しようとする時代の史料を正確に翻刻でき、かつ、内容についても理解できるかどうかを問う問題である。(ア)は、寛永期の将軍上洛について記した幕府日記の写である。(1)はくずし字の読解能力を、(2)は史料の内容理解を問うものである。また、(3)(4)は近世期の基本用語についての理解度を問うもので、(5)は、史料が作成された時代状況について基本的な知</p>

	<p>識を元に論理的に説明できるかを測ることを意図としている。</p> <p>(イ)は、東京図書館長の田中稻城に宛てられた帝国大学教授、貴族院議員の外山正一の書簡である。(1)はくずし字の読解・翻刻の力を問い、(2)では、史料中の文言から差出人が推定できるかを問う。(3)では同じく史料中の文言から作成年代を推定させ、(4)は(2)(3)を踏まえて史料が作成された日清戦後の政治状況を論述させるものである。(5)は歴史研究の上での書簡の史料批判について説明させるものである。</p> <p>いずれの設問も、大学院で日本史学を学ぶ際に必要な史料から議論を組み立てていく基本的能力と関わっている。</p>
〔2〕【東洋史学】	<p>(1) 東洋史学の研究上の用語や概念に対する理解の正確性を幅広く問う。</p> <p>(2) 東洋史学の研究手法への理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔3〕【西洋史学(アッシリア学・エジプト学)】	<p>(1) 古代西アジア・北アフリカにおける神学・祭儀伝統に関する研究への理解の正確性を問う。</p> <p>(2) 古代西アジアにおける国家が中心と周縁との関係の中で領域を支配していたことについての理解と、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。</p>
〔4〕【先史学・考古学】	<p>(1) 考古学において、文化財を理化学的に分析するための基礎的な知識と研究手法を身につけているかを問う。</p> <p>(2) 考古科学の手法に関する専門的知識を的確に理解しているかを問うとともに、それを実際の研究に応用させるための能力を問う。</p>
〔5〕【民俗学】	<p>(1) 民俗学の研究手法についての理解を、自身の研究内容・調査計画にかかわらせ、論理的な文章として表現する能力を問う。</p> <p>(2) 資料の読解を通じて、民俗学研究上の課題に対する理解力を問う。</p>
〔6〕【文化人類学】	<p>(一) 文化人類学の研究上の概念や研究蓄積に対する理解の正確性を幅広く問う。</p> <p>(二) ①文化人類学に関する専門的な文献を的確に読解したうえ</p>

で、研究上の概念や研究蓄積に対する批判的な理解を問う。②文化人類学に関する専門的な文献を的確に読解したうえで、文化人類学の研究手法への理解と応用力、自身の考えを論理的な文章として表現する能力を問う。

以上